

ヤマセミ(カワセミ科) 全長38cm

5月1日に開催したペアーレ野鳥講座は、ヤマセミの繁殖行動が観察されるなど満足の一日でした。この日は主に大仙市内を巡る観察コースであったが、オシドリ、キンクロハジロやカンムリカイツブリ、チョウゲンボウなど多様な野鳥達を楽しみました。

最後の観察ポイントとなった大曲の雄物川河川敷では、ヤマセミのつがいが土壁にせっせと巣穴を掘っていた所でした。



ヤマセミはどの角度から見ても美しい。

ヤマセミは、秋田県版レッドデータブック2016で、準絶滅危惧種に指定される希少種です。主に山地の溪流や河川、湖沼、ダム湖などに分布しているが、1溪流に1つがいが生息するといわれています。県内全域で繁殖行動が確認されているが、個体数が少なく年々目撃数が減少しています。



巣穴に入るメス。穴掘りは始まったばかりでしょう、直ぐに戻ってきました。



巣穴の近くではオスも待機していて、メスが出てくると穴に入り掘削工事を始めます。夫婦の共同作業。

こうした現状から、市街地に近い雄物川でヤマセミの繁殖行動が確認されたことは、今後の自然環境を考える上でも貴重なデータとなるとおもわれます。

ヤマセミが巣穴を作る川岸の崖は、平常水位から4mほどの高さしかありません。土の崖に横穴を掘る巣穴は、年に何回かの増水や洪水により水没する危険性があります。



激しい水流で岸辺が削られ大木が倒れてしまいました。ここがお気に入りの休憩所となったようです。メス。



オスも同じ場所で巣穴を眺めます。

産卵から抱卵、孵化、巣立ちまでの約2か月間、大雨が降らないことを祈るばかりです。市内の住宅街から500メートルほどの距離で繁殖行動が見られる豊かな自然。この環境を何時までも大切に守っていくべきでしょう。



チョウゲンボウ、メス。12枚の尾羽を広げてくれました。